

ひょうたん鯨：おもひで印象派

記憶の話は
あねのね

記憶の話は
あ
の
ね

記憶の話は
あ
の
ね





ヤフーブログからセレクト転載、スナップ印象派、ツイッターノベル、おもしろ印象派などジャンルいろいろ、オリジナル写真も多数掲載して、よみやすいe-hon（閲覧無料）です。ダウンロードもOK！URLからアクセスしてぜひ。

Puboo ブログ e-hon 『ひょうたん鯨』（13Titleから増殖中～♪♪）

<http://p.booklog.jp/users/axros03>

：

下記は閲覧ページの一部です、ダウンロードしてお暇なときにお読みください。

≒140字物語 ひょうたん鯨

<http://p.booklog.jp/book/118396/read>

ひょうたん鯨：1

<http://p.booklog.jp/book/19047/read>

ひょうたん鯨：2

<http://p.booklog.jp/book/34561/read>

おもしろ印象派

デジ撮！オリジナル「新・おもしろ画像」と「印象記」ア・ラ・カルト。珈琲タイムに、見て読んでニュートラルなひとときを、ぜひ！

<http://p.booklog.jp/book/19408/read>

スナップ印象派：1

<http://p.booklog.jp/book/61780/read>

それぞれの呼ばせ方



それぞれの呼ばせ方

昼間の、代理店営業やらクライアントからのクレームやら理不尽に

怒ってもい、またその夜は晩酌がすぎて（酔っぱらって）もい、

「いいよドーゾ！お好きにドーゾ！ドーゾトーゾ！」とかなり投げ遣りに、

布団の上で七転しつつ何度もわめいていたそうさ。（汗）

それからしばらくして、

孫（娘の子ども）たちの私の呼び名がいつの間にか

「じいじどーぞ」になっていたという話はもうしない。

みんなに聞かれるのだ「ドーゾってなんなん？」と。

しかしそんな時、

うまく説明できないのだ、酩酊していて詳細を憶えていないから。

ところが相方（娘の義父）は、

「そんなややこしいカタカナ言葉、小っちゃな子どもに言える筈がないわ」との、

私のやっかみ*1まじりの心配（？）にかかわらず、

『グランファ』*2と呼ばせることにまんまと成功した。

ちなみに私の妻（さい）は『（*＝）*3 ちゃん』、

相方の妻（つま）さんは呼び名に頓着しなかったのか、すんなり『ばあば』。

祖父（じい）ちゃんとか祖母（ばあ）ちゃんと呼ばれることに抵抗を感じる世代、

バブル時を駆けた世代はまだ若いのだ、気持ちもカラダも。

：

*1 羨（うらや）ましさ

*2 瞬間、変化形『グランちゃん』がまじることが。おじいちゃん和グランファが混在しているのか、さらなる親しみを込めた愛称なのか。

*3 名前を端折った愛称



ダブルちゃんちゃんこ

今年1月、ドーターの父二人が揃って還暦を迎えることになった。

ぜひ“還暦祝い”をやろう。言い出しっぺは、Vサインをしているワタシ、

即乗ってきたのは陽気な義父の彼。誕生日が3日しか違わない。

そもそもワタシは、

還暦は自分で祝うものだと思い違いをしていたから、かなりお粗末。

ウィキペディアでは、還暦とは「干支(えと)が一巡した年」とある。

区切りの年ということだろう。

にしても近ごろの還暦祝いはオマツリ感覚でやっているみたい。

芸能人も赤いちゃんちゃんこを着て、はしゃいでいる。

4世代、総勢10人が揃って、かなり楽しい宴会でした。

ちなみに、縁起のプレゼントは、赤シャツ、赤ネクタイなど。

ちなみに彼の父は御年86.5歳、来年米寿を迎える。

さぞかし賑やかな宴になることだろうね。

「顔が出てもいいよ」ということで、相方のモザイクを解除します。

Photo 2008.2.17 「和食屋二蝶」



子どもたち優しく見守る

地域住民らの協力で学習活動や体験イベントに取り組んでいる中央小の「放課後子ども教室」。植田政治さん(68)は先生役のコーディネーターの一人。子どもたちを優しく見守っている。

低学年、高学年の児童をそれぞれ毎月1回ずつ担当する。体育館で宿題をみたり、一緒に遊んだり。「孫と接するような感じです」

夏休み工作教室では牛乳パックでヨーヨーなどを手作りした。冬休みには昔ながらの餅つきなどもあり、世代を超えた交流を深めている。

交通事故ゼロ目指し活動

中央校区交通安全母の会の会長を務める好井明子さん(52)は「みんなで一致団結して地域の交通事故ゼロを目指す」と宣言する。

会長に就任して4年目。のぼりやプラカードで交通安全をアピールする無言キャンペーンなどに加え、毎年春には中央小の新1年生にマスコットをプレゼント。イベントなどにも積極的に参加し、地域に根ざした活動を心がけている。

大切にしているのは地域の人同士のつながり。「活動を通じて互いの絆を深めたい」と力を込めた。



スポーツ行事に力を注ぐ

「幅広い世代に運動に親しんでもらう」が目的。中央校区体育協会会長

地識人 CHISHIKIJIN



週刊 まち歩き



高松市・レインボーロード界わい

高松市中心部の松縄、伏石両町を南北に走るレインボーロード。かつての田園風景は大きく変化し、沿線に大型店や飲食店などが並ぶ。歩道沿いにはモニュメントなどが整備され、憩いの空間を演出している。一方、地域の伝説にちなんだ地域おこしイベントも活発だ。新旧の表情を見せるエリアの魅力を探った。



画整理事業で道路整備や宅地開発が進んだ。メインストリートのレインボーロード(約650m)は98年間の絆を深め、を伝えよう。域々あめい交流

グランファ

...あ、グランファが新聞に載ってるわで！（細君）

...なんの記事やの？（拙）

...レインボーロード特集のまち歩きとかいうの。

放課後、小学生の世話してるやんか、あの紹介や。

...へえ、また始めたんやな。

どれどれと、新聞をしばらく読む拙（せつ）、朝のひとつき。

レインボーロードはエブリデイ晴れ模様だな。

：
彼はドーター嫁ぎ先の“気のいい”お義父さん。

3人の孫たちに、「お爺ちゃんと呼ばれるの嫌だよ、

“グランファ”と呼んどくれ」と早々に仕込んだのが

3人順繰りに功を奏して、いまはその呼び名が定着、馴染んでいる。

ちなみにワタシは酔っ払いエピソードがミックスした“じいじどうぞ”、

細君は“ともちゃん”、お義母さんはノーマルに“ばあば”。

名前の愛称“みっちゃん”で呼ばそうとしたが、

最初の孫（長男）が、一度に3人もは覚えきれなかったようだ。

：

そういや、ダブルちゃんちゃんこ（還暦祝い）したの、

もう8年前か、と遠い目。

以来本棚の写真立てにその一枚が置かれている。

：

ダブルちゃんちゃんこ

<http://blogs.yahoo.co.jp/axros03/41586827.html>



3 B体操ってなあに？

「これからこの近くの小学校で『3 B体操教室』の指導があるの」と、

ドーター嫁ぎ先のお母さんが立ち寄った。

前任の指導者の女性が亡くなり後任に指名されたと聞いたが、

そもそも3 B体操の3 Bは『Ball、Bell、Belter』の頭文字で、

それをツールにして音楽に合わせて体操をするというから楽しそうだ。

高齢者向けの健康体操ばかりでなく、対象はキッズまで幅広いという。

ファッショなラジオ体操、過激なダンスよりも親しみやすいよね。

余談のたぐいだが、3 B体操の3 Bってなんだ？とWikiしたことがあり、

イモヅル的にヒットした言葉がかなり面白かった覚えがある。

いわく、3年B組から始まって3 B政策、

ドイツの音楽家『Bach、Beethoven、Brahms』、

その他『Baby : 赤ちゃん・Beauty : 美人・Beetle : 動物』を使うと

視覚効果が高いという、広告3Bの法則だとか。

・・・で、出だしに戻ると。

かみさんと3人でしばらく表で立ち話をしているうちに

「あ、そうそう！」と、

車の中から地元JA交流誌『きらり』10月最新号を取りだして、

「この前取材うけてな」

「大阪から取材の女性ライターとカメラマンがやって来て、これ！」と、

4ページ特集（カラー）を見せてくれた。

「上手く撮れてるやないの！」「へえ、体操モデルまで！」などと

会話を弾ませながら眺めていると、

あれ!? 体操の中に指圧のイロハ『お腹に`の、の字押し』まであるよ。

WHOから2000年に`健康寿命、の指針が発表されているから、

これからますます活発になりそうな予感が。

『3B体操』、

WikipediaはもとよりYouTubeにも沢山の映像がアップされている。

PhotoはJA香川県の交流誌『きらり』 2013.OCTOBER



人に歴史あり（平成21年2009）

「人に歴史あり」という慣用句(phrase)が思い浮かんだ先日の祝賀会。

ドーター嫁ぎ先のおじいちゃんが、

藍綬褒章(らんじゅほうしょう)を受賞した、その記念祝賀会でのこと。

昭和26年(1951)からおおよそ60年に亘って、

地元自治会長を勤めた功績に対する表彰なのだが、

行動の継続(identity)たるや驚嘆に値する。

なにしろ私の年齢（昭和23年生まれ）にほぼ相当するのだから。

ちなみに最初の藍綬褒章受賞者は、

明治15年(1882)、村民生活の向上に貢献した大阪府の人であるという。

祝賀会は鏡割り、ひ孫たちによる花束贈呈などもあり、本当に盛大であった。

さてその人の生は誰しも、人の記憶に残るものだが、

市政にまで残るとなるとどう表現すべきか。じっくりと考えることにする。

[高松国際ホテル_Photo](#)



鯰の絵日記

「五泊六日で寒気団ご一行さまが日本列島にやってきました、
暖かいお出迎えを！」というラジオニュースを聴いた夕方。

熱爛が恋しくなるのはこんな日だ。

' ') 晩飯あそこにしよか。

^^o) えゝ、材料買うとるがな。

' ') ほうか、ほならええわ、今度にするか。

^^o) . . . 行こかほな♪あしたに回すわ。

外食好きのかみさん、面倒なことは先送りにしてその気に。

でやってきました、駅前居酒屋『ちょっといこう』。

すでにほぼ満席、空いているのは入口を背にした角っこの2席だけ。

裸の一斗缶に腰かけて、まず酒、おでん、骨付き若鶏と注文の最中 . . .

サラリーマン客2人、「座れる?」「すみません、満席です」

ドアを開けた瞬間、暖房の効いた店内へ寒風がびゅーっ!と、

容赦なく背中を直撃する。「!!おわっさっぶうーっ!」

滞在中そんな客たちが10回近く、前触れも遠慮もなくドアを開ける。

「酔ってられんわい!」と、その度にマフラーで頬かぶりガードする羽目に。

・・・さてきょうは、寒気団ご一行様“五泊六日”ツアーの2泊目か。

誕生日の歌



誕生日の歌

「姉ちゃんとしばらく行っとらんの、わし」とマイサン。

「週明けの月曜日はあの子の誕生日やで」とかみさん、

「ほんで幾つになったんやったかな？」とワタシ。

ドーターの誕生日とか、かみさんの誕生日、結婚記念日とかいろいろあるが、

17とか28とか切れの悪い数字なので覚えられない・・・(汗)

で前日の日曜日、ドミノピザ、ルーヴ、三越・美濃吉でケーキや食べ物、

缶ビールなどを仕込んでドーターン家へ出かけた。

10・8・3歳、3人のグラサン&グラド(早い話がマゴ)とかみさん、

マイサンの6人で食事&誕生会、

あいにくドーターの旦那は保育所“親父の会”があって飲みに出かけていた。

で、食べて飲んで喋って楽しい時を過ごして、

ラストはバースデーケーキを囲んでということになるのだが、

何せ直径15センチ弱のケーキだから年齢分のキャンドルが立てられない。

はともかく、部屋のライトを消して母の誕生日を祝う子どもたちの歌・・・

アップテンポでリズムカルな、息のあった合唱にサプライズ!

たんたん たんたん 誕生日

かあちゃんのかあちゃんの 誕生日

たん♪♪

たんたん たんたん 誕生日

みんなでかあちゃんにおめでとう

たん♪♪

たんたん たんたん 誕生日

ほんとうにうれしい誕生日♪♪

保育所や幼稚園で歌われているという『誕生日の歌』。

メロディは、

～そみそみ、どみそらそ、らそそ、どそそ、み、れ、ど♪♪～だと

ネットで紹介されていた。

いままでの“Happy Birthday to You”から脱皮した、

新しい日本の歌として根付いているのかな、いやそうなるといいな。



長女

月の引力が子宮にまで及んでいることを知っている人、知らない人。

その夜、満潮の河口は淀んだ水を茫洋と漲(みなぎ)らせていた。

水面を窺(うかが)う僕の顔を、月のエネルギーがゆらゆらと照らした。

その頃、妻の子宮を覗き込んで手招きをしていたのは、

この月だったのだ。

ニュートンに始まる科学者どもが、僕の長女の誕生を、

引力で片付けて仕舞いやがった。馬鹿。

1975.10.28 | Poem

:

マイドーター、いま3児の母



グランドサンandドーター

私の両膝の上に乗ってパソコンで遊んでいるのは、

マイドーターズサン&ドーター。

英語ではGrandson&GrandDaughterというそうだ。

画面は機関車トーマスのパズルゲーム。

近くに嫁いでいるので、時折ともどもやって来る。

成長の節目を楽しみにしているが、

さしずめ今度は、ピッカピカの一年生～♪か。

これでマイサンに子が出来たら（まだ嫁がないが）、孫だらけになるよな。

：

いいショットだ、と自画自賛中。

2008.04

とらやのようかん



とらやのようかん

「トラヤ、ゲット〜♪」

「（嫁いだ娘家族の母屋に）いつもの家庭用カレンダー*持ってったら、

虎屋の羊羹（ようかん）くれたわで」と、妻（さい）ご帰艦。

お家では昨日からなんでか、虎屋の話に沸いていて・・・偶然の重なりか、

それとも年の瀬だからお歳暮のお裾分けだったのかしらん。

*妻（さい）が友人から貰った家庭用カレンダーを3～4点、タマも大きく、予定の書き込みができる大判タイプ。バブル崩壊からこっち、年々、広告カレンダーが配られなくなって、文具店などで買うモノになりつつあるようだが、なかなかそこまでは。

：

虎屋の羊羹というと、ちょっとした悔いを遺している思い出がある。

父生前の、20年ちょっと昔の話。

掛かり付けの町医者で、年に一度のレントゲンを撮って胃ガンが見つかった。

すぐ系列の総合病院を紹介されて、胃カメラ、CTなどの細密検査。

胃ガンは進行、すでに方々へ転移していた。余談だが当時は告知をしなかった。

その理由が「自殺する人もいますから」と、“なぜだか”釈然としないモノ、

今から考えると、人間の尊厳をないがしろにした医師の逃げ口上、もしくは・・・。

といった経緯があって、数日後もしくは10数日後には12時間におよぶ手術。

術後「これは手術をしなかった方が良かったという例かも知れませんね」と、

回りくどい言い回しをしたこの外科医は、なにしろ団塊世代、

在学中ついで見かけたことのなかった私の学年の同窓生だった、

という余談まで付いていた。

胃ガンは当時流行りの病（やまい）、胃ガンノイローゼという風潮まであった。

越路吹雪もサザエさんの長谷川町子も手塚治虫も胃ガンで亡くなっている。

それはともかく、それからしばらく普通に生活をしていた時のこと。

父母と妻（さい）の四人で団らんしているときに、

父が「虎屋の羊羹が食べたいゾ」、と言う。

「なんやトラヤって、それ三越に売っているのか、

そうか、こんど買ってくるわ」と言ったままになっていた。

その時まで、私は虎屋の羊羹なるものを食べたことがなかったから、

頓着（≡気にかける）しようにも姿カタチがイメージされない、

でその内に・・・早い話が、忘れてしまったということだ。

あの時、買っていれば、といった悔いと、

食べられていたのにといった食い意地が、ない交ぜになってよみがえってくる。

妻（さい）に言わせると1～2年前に一度、

虎屋の小さいのをひとくち（！）食べたことがあるらしいが、記憶にない。

おそらくこれが生涯最初で最後だった筈だから、

貰った虎屋の羊羹、味を噛みしめながらいただかないと・・・。

：
閑話休題。

ある家族にお歳暮が届いた。

一人留守番をしていた小学生の次女が受けとった。

パッケージから虎屋の羊羹（ようかん）だとすぐ分かった。

しばらくしておばあちゃんが帰ってきたので渡すと、あらまあ♪と笑顔に。

いただき物の甘味の類（たぐい）は、

お仏壇にあげたあとみんなでお三時にいただくのが、この家の常。

愉しみにしていたが、翌日も次の日も出てこない、話にもあがらない、

もしかするとワタシが留守の間にみんなで食べてしまっていたのでは。

心配になった次女は長女に訊ねた。いやそんなものは出されていないわ、と。

とするともしかして、おばあちゃんが一人で食べちゃったの？

時として羊羹（ようかん）は疑心暗鬼のツメを搔きたてる。

モノがトラ屋だけに。 [#ツイノベ](#)

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。

なっちゃんのテーブル



なっちゃんのテーブル

お呼ばれ盛装、お子さまランチでテーブルマナーはじめ

2015.11.9





チワワ様のお成り〜♪♪

GW、港で祭りだ・・・というか四国の祭りをテーマにしたイベントだ。

ステージではこれ以上無理でしょ、というぐらいの大音響を轟かしている！

きょうは日替りで高知の祭りか、「よさこい」は威勢がいいや。

屋台がそこかしこに立ち並んで、さながら八幡さんの春祭り。

食べ物屋台にも流行があり、目立ったのは、たこ焼きならぬ「かつしゃ焼」。

親鶏「かしわ=かつしゃ（勝者の宛て字）」の細切れを濃いめの味付けで、

炒めたのか煮込んだのが、タコの代わりに入っているというもの。

いつかの全国B級グルメ大会の覇者だという。

そこそこ旨いぞ、7個入りで300円というのもリーズナブル。

そんなこんなでうろうろしていると、あちらから、チワワさまのお成りだよ！

紅白幕に金屏風、藤の花を掲げた手押しカーにちょこんと。

押しているのは鳥打ち帽（ハンチング）にブレザー姿の好々爺。

可愛い孫（チワワ）を、

祭り見物の皆様さまにお披露目にやって来たのかな。

しかしこの犬、いつ見ても不愛想で不機嫌そう、犬相が悪い。



楽描き年賀

猫というよりトッポジョーだね、これだと！

ネコバスにネズミが乗っていることを再確認したよ！



空飛ぶファミリー

こどもの日 (2014 こどもの日)



バレエ発表会♪♫

孫娘（もうすぐ7歳）のバレエ発表会。

県民ホールの待合室には、

お決まり（らしい）のバルーンプレゼントが所狭しとふわふわ、

下にはメッセージカード。

お遊戯会の延長じゃないの？と高（たか）をくくっていたがなんの、

プロも出演する立派なステージ、子どもたちのバレエ演技も映えるディレクション！

豪華カラー刷りパンフを眺めていてふと、男の子はいないの？と疑問が。

・・・いました、ベビークラス（3～4歳）に一人だけ。

ちっちゃな子どもたちの演技は、よそ様の子どもながら、

観ていて緊張してしまうというおまけ付きで、いや可愛いぞ。

しかしこんな世界もあるんだな、かなり見ごたえがあって面白かった。

：

左のイラストで走っているちびっ子は、末の孫娘のイメージ？です。



楽描き

マイサンが結婚した年の

年賀イラスト（2015年）。

まだGrandson 4 は生まれていない。



ふおっふおっほ♪

日曜日、買い物に立ち寄った大・中・小・さらに小の

マトリョーシカ母娘が、かみさんと連れだってでかけた

地方都市（もうすぐ）唯一*になるデパートから帰ってきた。

開口一番「帽子くれたわあ、ほら!」とグランドたち。

「三越に青い眼のサンタさんがおってな。とんがり帽子くれたんや!」

「ほやけどなに聞いても『ふおっふおっほ♪』て言うばかりで、

あのサンタさん日本語知らんのやなあ」

「なに言うてるん、サンタさんが日本語喋ったら、

それこそオカシイやんか」とかみさん。

「そっか、それもそーやなあ」と素直に納得している、

ついでに横で聞いていたワタシも得心したものの・・・ん？

:

あとで聞くと英会話の講師が扮装していたというから、

「日本語は喋らないで」と止められていたのかもね。

* 2014年3月、天満屋が撤退してデパートは三越一店だけになった。

* 2013年12月某日



4歳児の世界_1

4歳になるグラド、2年前のスナップ写真を見て、

「なっちゃん、なんでこんなに小さいん!？」と。

・・・んん、そんなリアクションがあったとは。

:

4歳児の世界_2

孫娘（3歳）を乗せてドライブをしていた。

小さなトンネル（栗林トンネル）近くの三叉路手前、正面に山が迫ってくる。

...うっわー、山が来るうーっ！

...緑が来たあーっ！と立ちあがって大騒ぎ。

そうだ、五月は山の緑が鮮やかモリモリ、木の芽もムニムニだからね！

それにしても面白いボキャを持っているなあ、3歳児は。

:

4歳児の世界_3

外で食事した昨夜、ドーターんちで3歳になるグラドと遊んでいると、

次第に脳が幼児の領域に重なってきた。

キッチン後ろの通路で、彼女がいまからやろうとしている『ごっこ遊び』が

言葉なく理解できるのだ。

小難しく書いたが、ドアで閉じ込めた振り、

でまた次のドアで・・・タイトなスペースに何枚ものドアがある、

といったエアゲームだ。

似たような『漁師とお魚ごっこ遊び』、

ドーターが小っちゃな頃にもやっていたなあ、とかなり遠い目を。



楽描き

:

わたしおたんじょうびにうまれてきたの

といった広告コピーがあった

はともかく

もう五歳、まだ五歳・・・活発な末っ娘グランド (Grand daughter)

地球のGに逆らって、飛んで跳ねて、疲れたら眠る

こっちはどんな【なっち語録】をかたってくれるかなあ

と鯨 (なまず) のひとりごち、ぷくぷく



楽描き

ルンバとなっちゃん

リポビタンDのシール応募キャンペーンで『ルンバ』が当選したの。

早速使っているんだけど、なっちゃん（Grand daughter）が怖がってねえ、

とドーター嫁ぎ先のお義母さん。

未確認移動物体（UMO）*に遭遇したというよりも、

ボディ下部でしゃかりきに動くブラシを気味悪がっているというのだ。

・・・猫にルンバじゃないけど、ルンバにおっかなびっくりな、

なっちゃんのリアクションが見てみたいなあ。

* Unidentified Moving Object

なっちゃん語録

...なっちゃん、春になったら

動物園にいこうね～♪♪

...はるう～!?

はるってなに～?

...へっ!?

或る日の、なっちゃんとかみさんとの会話



サワエさんとサザエさん

こんなタッチの絵は子どもの頃からよく描いていた。

しかし、人を描くなら骨を描けというように人体デッサンはなかなか難しい。

漫画家と呼ばれる人たちは天才なのだ、

バカボンだってキチンと骨格が描けたうえでの

ディフォルメでありキャラクターなのだ。

だからといって、バカボンのパパと私の落書きとは何の関係もない、

ちょっと通（つう）ぶってみただけ。

サワエさん、亡くなって久しいが思い出すのは、やはり満面の温かい笑み。

みんなそうだ、夭逝した人や天寿を全うした人、その他いろいろな人を

思い出すときに浮かんでくる表情は、なぜだかみんな笑顔だ。

でサワエさんのそれはどんなんだったか、というと、

この絵のように、まんまるい顔に小さく優しい目が印象的だった。

後ろで物欲しそうに立っているのは、ワタシだ。

こんどはサザエさんの髪型をした、若い時分のサワエさんの写真でも・・・。

：

余談だが本名はその昔多かった片仮名の『サワエ』だが、

ワタシのブログやダイアリーには平仮名で『さわゑ』と、

父の記録帳（家の日記みたいなノート）には『沢枝』と書いてあった。

しかし本人の好みは『澤江』、表記名をいろいろ持つ人だったのだ。

フレンチの小宴



フレンチの小宴

ごく近い人たちだけで祝ったマイサン夫婦のウェディング・レセプション。

フレンチの名店『ボワ・エ・デュポン』（木場シェフ）で催した小宴だった。

さて、フレンチはソースを味わう（と、どこかに書いてあった）というが、

まず最初のひと品【ひとくちのお楽しみ_Amuse Bouche】からして、

意外さの梅テイスト、ほぼひとくちで戴いたので食材はなんだったか・・・。

出色は、ちょっとサプライズな茶碗蒸しといった【コンソメ・ロワイヤル】、

松茸を浮かべたコンソメスープの底に蒸しものを綴じた一品。

さらに『フォアグラのポワレ』なども。

ソースと料理の仕掛けが複雑なんだよな、フレンチに不慣れな身としては、

と言いつつも、とまれ、佳い日だったなあ、生憎の雨だったが。

:

フレンチに舌つづみした記憶はまた、ハッピーメモリアルとして刻まれる、ともね。



ドーター、園児のみぎり

幼稚園の滑り台でドーター、

勢いよく「ひゃあ〜っ♪」と滑ったのはいいけれど、

降り口で数10センチほど宙に浮いてドッスン！と、みごとな尻餅。

「うっわ〜んんん！！。(°`Д´°)。」と泣き叫んだものだから、

びっくりして救急車を呼ぼうと思った・・・と曇り空の下の遠い日。

：

でまた（ドーターの）ドーター

週末スキーで腕を骨折したグラド（小2）、

退院したものの三角巾をしているから制服に腕を通せない。

ゆったりとしたウェアをユニクロへ買いに行こう。という話になって。

・・・突然「みんなと一緒に（の制服）じゃないと嫌！」と泣きだしちゃった。

なだめるドーターと妻（さい）、さてさてこの心情、

どう理解してやればいいのか。

Photoはネットから無断転載。不可の場合は一報を。



グランドサン&ドーター。

その昔受けた、芸用解剖学の授業だったか。

人間の骨格はほぼ同じく出来ている、違っているのは肉付きだけだ。

人間を描くのならば、芯である骨を描けと教わったことがある。

骨格さえ捉えていれば、

どんなポーズになっても正確に描けるというわけだ。

言葉を換えると、人間は骨格がほぼ同じだから、

同じ動作をすると姿は常に同じになる、という事。

その確たる証拠の一つが、この寝姿ではないか。

ましてや兄妹ともなればなおさら。



サンマちょ～だっ♪♪

ドーター家族とスシロー、祝日*前だからかなりの混みよう。

待つことしばし・・・「**番の7名様～」

「え、7人もおるんやな。また尻半分はみ出し座りや」と私。

さて4歳のグラドはまず【かけうどん】。

続いて「サンマちょ～だっ♪♪」と言いながらも、

ホントは「鰻（うなぎ）が食べたいよ～♡」のラブコール。

二つの違いは勿論分かっていない・・・このギャップが面白い。

そんなこんなで皿はたちまち山盛り、

10皿ひとまとまりに重ねて皿のお山が四つと少し、小鉢やどんぶりが！

で今夜のヒットは、3人のグラド&グラサンどっちも【若鶏グリルステーキ】、

これ結構、ノーベル・キュージーなお鮭だ。

* 建国記念日

もうひとつのポーズは？



もうひとつのポーズは？

お正月の私的・行事が恙（つつが）なく過ぎてもう三日、

とはいうものの今年も【お餅】を食べてない、

ましてや【白味噌仕立て餡餅（あんもち）雑煮】など。

なにせ飲んべえだから、餅のぶんだけお酒を♪というわけで。

:

グラドの写真を送ってもらったのはいいのだが・・・。

『あいーん』と『こまねち』は分かるが、

残りのワンポーズはなんだろ？

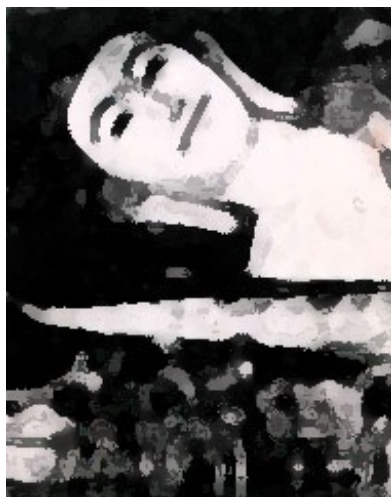
:

ついさっきドーターからメールがあった、

シェーやで！

と。

本読みのこと



本読みのこと

3～5歳のころの娘と息子（5つほど年が離れている）を両側にして、
布団にうつ伏せて絵本を読んだ記憶が、かなり鮮やかに残っている。

あれはハッピー感100%を超えた至福タイムだった。

・・・子どもに本を読んでやるのって、

なんともいい触れ合いだったな、と遠い目で。

:

義父のこと

ビルマ（現ミャンマー）から無事生還してきた義父（SAIの父）、

インパール作戦には狩りだされていなかったようだ。

結婚して三人の子どもに恵まれて、

家を新築、庭（お気に入り）もつくって順風満帆かと思えた、

働き盛りの四十半ば脳梗塞で死去。麻雀&競輪好きで

酒は嗜（たしな）まない生真面目な性格だった・・・などと聞くたびに、

生きていればどんな付き合い方をしていたのかと。

ちなみに酒以外は拙（せつ）の趣味とおんなじだった。

:

お袋のこと

私のお袋、断舎利などという、そんな言葉が一般に知られる前から

身の回りをシンプルにする、直列タイプの人だった。

古本屋さん通いでせっせとためた、

スクリーンとか映画の友、キネマ旬報などの『映画誌』。

大学の夏休みだかに帰ってくると、「バザーに出したわで」と、こともなげ。

その他、田舎家は広いからと運び込んだ、

仕事場のマップケースなどの大きな事務系不要品、ある日帰ると跡形もない。

「どこへやったんや？」「ゴミに出した」と平然、

ワタシ唾然！といったことが多々。モノを大切にするのもいいが、

捨てるときはせっせと捨てるの、ありかも。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。

【柞】



【柞】

ルーツといえはまず先祖、

そして育った土地のことから書かなければいけない。

母からの聞き伝えで三代前までの名前、

またそれ以前の先祖のことも臆気（おぼろげ）ながら分かっている。

お仏壇の過去帳、浄土宗は「位牌」ではなく「過去帳」、

木板の表に戒名、裏に姓名・没年が書かれている、

その過去帳を裏返すとさらに遡（さかのぼ）れる筈だ。

江戸時代の年譜から言うと、

寛政、文化、文政などと10代近くに亘（わた）っているかも知れない。

：

さて、生まれ育った土地の名前は『柞原』、当時は村だったか。

柞原と書いて『くばら』、

近在では柞田と書いて『くにた』と読ませる町がある。

大分に渡ると『ゆすはら』、柞原（ゆすはら）八幡宮という著名な神社がある。

柞原と書いただけでざっとこれだけの読み方がある、

全国と同じ漢字の地名を調べるとまだあるかも知れない。

『柞原』は幼少の時分から意味不詳の漢字であった。

そもそも【柞】の一字、辞書によるとクヌギ、ナラ、イスノキ、ハハソなど

読み方がさまざま、違いすぎる。

【柞】は【櫪】（いずれもクヌギと読む）の略字のようでもあり、

土地の人も含めて誰もよく理解できていないようだ。

柞原村の地名からは、添付写真のような

『柞（クヌギ）が林立する原野（はらの）』といった情景を思い浮かべている。

クヌギは通称「ドングリの木」、

団栗の実の生るブナ科コナラ属の『落葉高木』のことである。

また一方「柞（イスノキ）」とも読ませるが、イスノキは『常緑高木』、

木質が堅いので家具や道具として利用されている。

多くの場合、地名は土地の生い立ちを表しているようだ。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



飲んべえの品格

秋祭りの宵、座敷に七輪持ち込んで、みんなでつつくすき焼き。

幼児のころの `人間椅子、は大人の胡座（あぐら）に腰を下ろすこと。

温かく座り心地よく、手にした小皿に随時食べものが運ばれる。

唯一苦手だったのは、頭上から下りてくる爛酒の匂い。・・・うぷっ。

:

私の家系はすべからく飲んべえ、

祖父は日に三度のコップ酒、

ベッド（家族で一人だけ）の下にはいつも一升瓶が2～3本転がっていた。

伯父は初手お猪口でちびちび、酔いが入るとせっかちにどんぶり酒。

父は、母に給仕をさせながらおとなしく晩酌、

時にビールを注いだジョッキにウィスキーを混ぜていきなり酩酊したり、と。

母は堂々と養命酒（Al.12%）、時に隠れ酒、年中リカー酒を拵っていた。

:

みんなが美味しそうに酒を飲んでいるのを、幼少から見せられていたので、

酒は美味しいモノだと刷りこまれていて、当然ながら長じてワタシも飲んべえに。

その道を同胞（はらから）*も迎える。 *おとうと

:

一番羨ましい人は、

定量に達すると飲めなくなる、さらに普段は飲まないといった体質の人。

いつまでもフカ、もしくは底なしでは躰（からだ）だけではなく精神が持たんわ。

しかし酒の効能というの、

なくもないと思うが、その逆の方がはるかに多そうだ。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。



村に一基の太鼓台

私は幼児で、ここにいた筈だが写っていない。

なぜそう思うのかと云うと、前方で弟が祖父に手をつながれているから。

写真を眺めているとうっすらと、この時の記憶が浮かびあがってきた。

そうだ、私は確か後ろの太鼓台の内側に潜りこんでいた。

そのなかは薄暗くてがらんどう、下段に大太鼓が据え付けられていて、

その上は展望できるようになっているが、

近所の少年や小さな子どもたちですでに満杯であった。

登ろうとしたがまだ小さく非力、またすき間も手がかりもなく。

子どもながらに疎外感を感じて、ただ見あげていた。

その失望感や悲しさ、悔しさがあつたからずっと憶えていたのだ。

太鼓台がとまっている場所が、

村の鎮守・高幢（こうどう）神社であることも改めて確認した。

その時の記憶と一葉の写真が、

数10年ぶりにパソコンに映し出して初めて繋がったのだが、

温和しく記念写真に収まっていればよかったものを、と今さらながらに。

：

半世紀以上前（昭和30年前後）の、

古く小さなモノクロ写真をスキャニングして、パソコン画面で眺めていた。



初めて知ったよ、泣き顔も含めて記念写真なんだな。

・・・なんといっても生後2ヵ月だから。

2018.6.23 Grandson



初しごと

...これが初めてのしごとだぜ、ぜいぜい。

:

かあちゃんに誕生カード持たされる、の巻。

2018



百日紅

真夏の陽ざしを浴びて艶やかな花を咲かせている。

花の時季にならないと雑木のような・・樹なのか花なのか、

名前を再確認すると『百日紅』（猿すべり）だと、

猿すべりがこんな文字を充てるとは知らなかったよ。

玄関先で眺めているおじさん連中に

「なんでこの樹が猿すべりと呼ばれているんですか？」と訊ねると。

樹皮が剥がれて、木登り上手な猿も滑ることから、そう呼ばれていると。

6年前に亡くなったお爺ちゃんが植えた『百日紅』、

ここには何度も来ているが花を咲かせているのを初めて見たような。

夏の一日、七回忌法事でひとつ利口に。



カメラ小僧 2015.4 in Ritsurin Garden

カメラ小僧と綴ったものの女の子だよ。

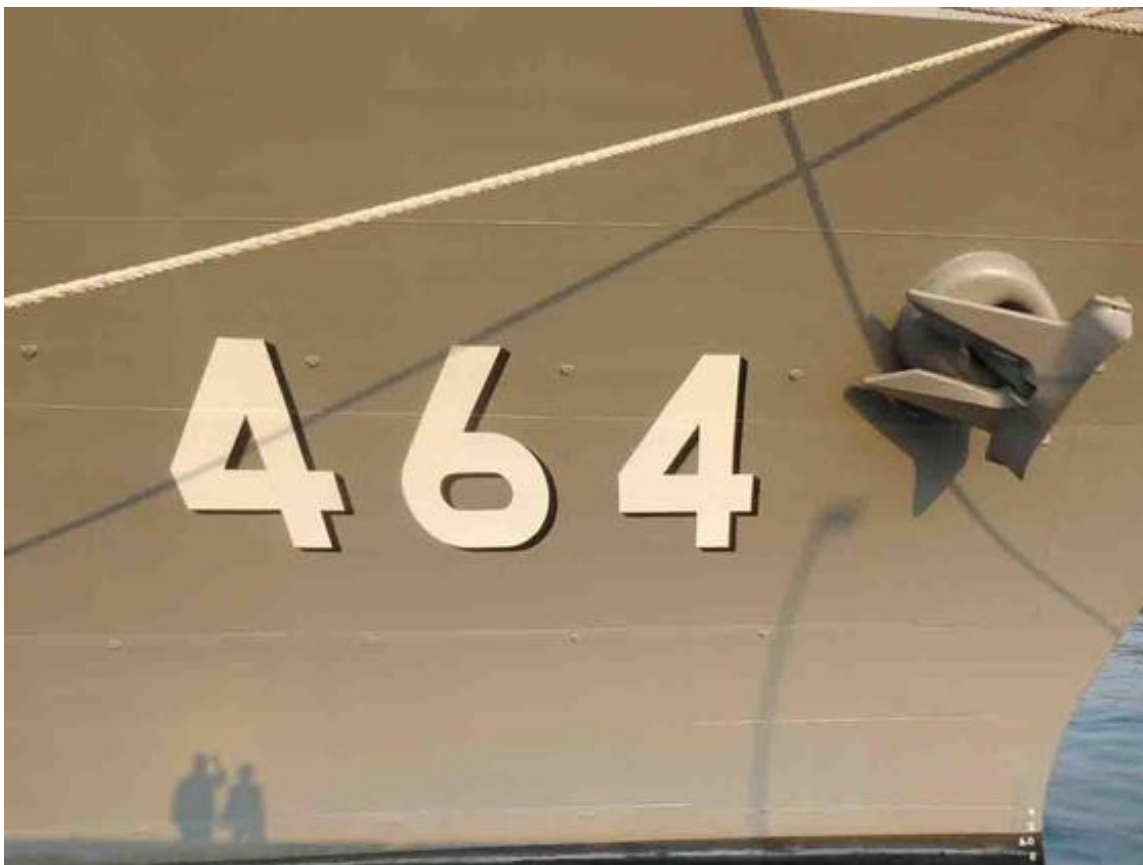
お花見でコンデジを持たせたら、あっちでシャッター、こっちでシャッター。

4歳児にも恰好の被写体なんだね、満開の桜。

俯瞰、鳥瞰ならぬ仰視もしくは仰瞰、または虫瞰*ともいう仰角撮影。

キレイに撮れていました～♪♪

*俯瞰の逆の言葉ってなあに？と、辞書とYahoo!検索で調べました。



自衛艦を見学していたら、日脚が長くなってきた。

...もう帰るか。

...そやな。

：

サンポート高松 5万トン級岸壁

フレンチの小宴



フレンチの小宴

ごく近い人たちだけで祝ったマイサン夫婦のウェディング・レセプション。

フレンチの名店『ボワ・エ・デュポン』（木場シェフ）で催した小宴だった。

叔父や叔母はもとより、姉、弟、従妹に姪と甥と結構いるものだと。

でさて、フレンチはソースを味わう（と、どこかに書いてあった）というが、

まず最初のひと品【ひとくちのお楽しみ_Amuse Bouche】からして、

意外さの梅テイスト、ほぼひとくちで戴いたので食材はなんだったか・・・。

出色は、ちょっとサプライズな茶碗蒸しといった【コンソメ・ロワイヤル】、

松茸を浮かべたコンソメスープの底に蒸しものを綴じた一品。

さらに『フォアグラのポワレ』なども。

ソースと料理の仕掛けが複雑なんだよな、フレンチに不慣れな身としては、

と言いつつも、とまれ、佳い日だったなあ、生憎の雨だったが。

・

フレンチに舌つづみした記憶はまた、ハッピーメモリアルとして刻まれる、ともね。

あまなっとおお～♪♫



あまなっとおお～♪♫

Tweet

ぽりぽり、ぐびっ！湯割り焼酎に小粒『甘納豆』・・・これがなかなか好相性、病みつきになる旨さ、ジャポネーゼな味わいがいいっ！讃岐・香川町の山小屋で作っているってさ、村瀬食品・・・聞いたことない名前だけど（買ってきてくれるというから）早速一つお願いしたよ。

.

ドーター家族から

「いつも両親にお世話になっているからみんなで食事を」と殊勝なお誘い。

要らぬ気遣いをするんじゃないよといいながらも満更でもなく、

ルーヴのショートケーキを買って出かけたのが、しんしん冷える昨晚のこと。

すでにテーブルには[すき焼き鍋]と[しゃぶしゃぶ鍋]が湯気を立てて、

黒豆含め煮と鱈（さわら）のてっぱい、野菜サラダなどがスタンバっている。

でさて、しばらく賑やかな団らんが続いてそろそろお片付け・・・

子どもたちがケーキに夢中になっているころも、

私はいつものペースで黒豆を肴にまだ湯割りをゆっくり飲（や）っている。

豆つながりだったのかここで、

グランファ（あちらの父上の呼び名）お薦め*の『甘納豆』のお出まし、

当地に時季限定の隠れ名産地があるんだとか。

へえ！こんな甘味、最後に食べたのはいつだったかと一粒一口、

お！旨いわで、と言いつつそのうち何個も指で掴んで食べ始めた。

懐古を紡ぐナチュラルな甘さとまるやかな歯触り、

ほりほり、ぐびっ！・・・湯割り焼酎に小粒『甘納豆』、これがなかなか好相性、

たちまち病みつきに、ジャポネーゼな味わいがいいっ！

あとで調べてみると高松市香川町の山道沿いの小屋で作っているってさ、

村瀬食品、聞いたことない名前だけど、買ってきてくれるというから

早速一つお願いしたよ。・・・ん、で『芋納豆』ってなんだい!?

.

おいしいものを食べて感動すると、人に*薦めたくなる。

これを“おらが味自慢”という、誰がそう名付けたって!?!私さ。

ぞーしゃん、ばおー！



いざっ

ドーター家族が徳島動物園へ、なにしろ象さんを見たことのない末っ娘グラドが、テレビを観て「ぞーしゃん、ばおー！」などと、鼻をあげる様子を真似るからには本物を見せなきゃなと、出かけることに、ついでに妻(さい)とワタシも、都合総勢7名。

あいにくの空模様ながら、「ま、あちらへ着く頃には雨もあがっているわで」と、ときおりフロントガラスに纏わり付く雨粒を眺めて一喜一憂しながら、Honda Swgnで高速を一路徳島へ。

くるまや

高速から市街に入ってほどなく収まりを見せかけた雨、お昼の腹ごしらえは徳島ラーメンでしょ！と、クルマを走らせながら街道沿いをウロウロとラーメン店探し。11時前だがすでに8~10台のクルマが駐まっているラーメン店『くるまや』へ、いかにも地元のラーメン屋さんの雰囲気「これはイケそうやな！」とドーター旦那。

で突如ラーメン談義、「徳島ラーメンってなにがどう違うの、他と」「徳島で食べさせてるから徳島ラーメンやろ」「違うがな、チャーシューだっけ、お肉がこってりとして味が濃いんや」「ほならこの店は徳島ラーメンやろか」「そやろ徳島にあるからなあ」・・・などと少し頓珍漢な遣り取りがあって店内へ。

さて私がオーダーした『塩バター葱ラーメン』は、もっちりとしたコシの中細ストレート麺、塩ベースなのにこってりとしたコクのスープ、これならバターは余計だったか。

「葱(ねぎ)ラーメンの葱ってコチジャンで和えとるんか、かなりピリ辛やお」などと言いながらも、完食。全員満足したからこの店はマルッ！だ。

徳島動物園

腹ごしらえも出来て辿り着いた『徳島動物園（市立）』、3連休初日だというのにこんな天気だからか駐車場がかなり空いている。園内を回遊していてデジャブな気持ちに囚われる。妻(さい)に訊ねると「前に行った“高知のいち動物園（県立）”と設計が同じなんや」「なるほど」。

未っ娘グランド、初めて見る象さんの前で突っ立ったまま声がない、リアクションさえもない、一体どんな印象だったんだろうな。

動物オリの前すべてに楽しいイラスト入り解説カードやクイズが並べられている、とても読み切れない枚数だ。途中、飼育員の可愛いお姉さんにも会った。気遣いの行き届いた動物園だからマルッ！だ。

大鳴門橋界限

帰途、渦上45メートルの海上を遊歩する『渦の道』に寄り道。

この界限には、大鳴門橋、記念館、展望台、うずしお汽船、大塚国際美術館（一日で観きれない数の陶板焼レプリカ絵画を展示とか）、プライベートビーチを持つ観光ホテルなどが集まっています時間の節約に。

動物園を出る頃からドーター旦那、「びんび家楽しみや、なに食べよか、みんな一所懸命歩いてお腹空かしてな」。・・・え、びんび家で食事!?

びんび家

その昔、お勤め人に成り立ての若い頃にクルマでこの前を一度通りかかって以来、きょうの今まで、鳴門わかめなどを販売する“海産物土産”のお店だばかりと思っていた鳴門『びんび屋』、実は人気の食事処だった。長年の誤解が解けて食べて旨かったよ！という話に落ち着くのだが、さて。

広い店内はさながら大食堂、賑わいが食欲をそそる。最初に目に飛び込んできたのが、煮魚のショーケース、そのなかでもひときわ身の太い煮魚、注文した後で訊(き)くとコチだった。わかめの味噌汁がカラダに優しいぞ、その他、刺身、天麩羅、丼、鯛飯などのメニュー。他に何があるのか、何が一番のウリなのかあと2~3度行かないと分からないが、ちょっと遠いなあ。

鳴門『びんび家』、なんともボリュームと鮮度がよろしい、よってマルッ！だ。



卒園カード

先週の日曜日、ドーターがグラド（長女）の『卒園カード』を作ってえな

と、グラサン（長男）・グラド（長女）を連れてやって来た。

グラサンの時はこんなやったよ、と卒園アルバムを見せられるが

かなり立派な拵え、園児の数だけ作って記念に配るというから、

相当な費用だな・・・と要らぬ心配をしてしまう。

さてその分厚いアルバムには、卒園者それぞれの写真と

親たちのメッセージが書かれた『卒園カード』を貼ってある。

こんなの、ドーターの時にはしなかったぞと、隔世の感（大袈裟？）。

で、ドーターの厳しいチェックを受けながら、

えっちらおっちら(-.-;)y°°

ネットからフリー画像を引っ張って、グラドのお絵描きをスキャンして、

その間ドーターはメッセージ書き（これがまたいいんじゃない！）を、

・ ・ ようやく出来たよ♪折角だからblogに載せますか。



寿カット

友人代表として、スーツ姿にキャップを被（かぶ）って

マイクの前に立ち、おもむろに披露宴で挨拶を始める。

二人のなれそめなどエピソード紹介をひとしきり終えた後、あらためて

「おめでとうございます！」の言葉を発しながら、キャップを脱いで深々と一礼する。

ルージュで縁取られた“寿”の文字が、

新郎・新婦、列席者の前に披露される。

艶やかなパフォーマンスに一瞬静まりかえる会場、そして沸き上がる歓声の渦！

「よくやったあ！」と、友人たちが次々ビールを注ぎに来る。

スピーチは大成功！美容院へ行った甲斐があったというものだ。



パッピィー

...今日はマージャンやでー、かつでー。

...1万円を平気で使うMy father。かつと次の日はけいりんや。

:

イラストはマイドーター（長女）* 作、

パッピィーはパパの訛りだと思うが、もしかすると流行り語かも知れない。

使い込んで痛んだ料理本をカバーしたケント紙に、いつの間にか描かれていた。

作務衣、ジャージを着たワタシ。手には買いものカゴ、菜箸（さいばし）、おたま。

ずっとあとで気付いて、上手いじゃないか♪と感心したものだ。

描いたのは小学生高学年か中学生になって間もなくか。

長女*、いま三児の母

:

やむを得ず、事務所（Ad.Design）を始めて仕舞って両親ともに忙しい。

スタッフが増えてからは、私はともかく写植（PhotoTyping）担当のS A Iが。

食事を拵える時間がまともにとれない、

ファミレスや居酒屋系はそれなりに美味しいが、やはり偏（かたよ）りが心配。

小さいころから親爺（指圧療術師）に`耳タコ、で聞かされていた栄養学、

本人もあぜ道の雑草などでミキシングした青汁、レモンの絞り汁、玄米ご飯、

七分搗（づ）きご飯などを食べていた。玄米ご飯以外は私も。

躰（からだ）にトラブルなく生きるためには、食生活が大切なのだと、

子ども時分から洗脳され続けていた、

というか知らずに`強迫観念、が植え付けられていたのである。

その内マイサン（長男）が誕生して保育所へ、

スタッフも増えて仕事の手が少し離れたある時期、

唐突に`家メシ、づくりをスタートさせた。

タウン誌にしばらく掲載した『台所おぢさん』の端緒（たんしょ）でもある。

料理本のレシピに書いてある『ダシ1カップ』の`ダシ、の意味も知らず、

もとより即席ラーメン、炒めものしかつくったことがなく、よくやったものだと。

:

で近ごろの私はカップ麺にお湯を注ぐぐらいしかせず、ご飯はSAI頼り。

...こんやのばんめし、なんやの。（拙：せつ）

...あたえられたモノをだまってくえ。（妻：SAI）

...くえっくえっ、くえ〜。（拙）

ぞーしゃん、ばおー！



いざっ

ドーター家族が徳島動物園へ、なにしろ象さんを見たことのない末っ娘グラドが、テレビを観て「ぞーしゃん、ばおー！」などと、鼻をあげる様子を真似るからには本物を見せなきゃなど、出かけることに、ついでに妻（さい）とワタシも、都合総員7名。

あいにくの空模様ながら「ま、あちらへ着く頃には雨もあがっているいるわで」と、ときおりフロントガラスに纏わり付く雨粒を眺めて一喜一憂しながら、ホンダステップワゴンで高速を一路徳島へ。

:

くるまや

高速から市街に入ってほどなく収まりを見せかけた雨、お昼の腹ごしらえは徳島ラーメンでしょ！と、クルマを走らせながら街道沿いをウロウロとラーメン店探し。11時前だがすでに8~10台のクルマが駐まっているラーメン店『くるまや』へ、いかにも地元のラーメン屋さんの雰囲気「これはイケそうやな！」とドーター旦那。

で突如ラーメン談義。「徳島ラーメンってなにがどう違うの、他と」「徳島で食べさせてるから徳島ラーメンやろ」「違うがな、チャーシューだっけ、お肉がこってりとして味が濃いや」「ほならこの店は徳島ラーメンやろか」「そやろ徳島にあるからなあ」。・・・などと少し頓珍漢な遣り取りがあって店内へ。

さて私がオーダーした『塩バター葱ラーメン』は、もっちりとしたコシの中細ストレート麺、塩ベースなのにこってりとしたコクのスープ、これならバターは余計だったか。

「葱（ねぎ）ラーメンの葱ってコチジャンで和えとるんか、かなりピリ辛やお」などと言いながらも、完食。全員満足したからこの店はマルッ！だ。

：

徳島動物園

腹ごしらえも出来て辿り着いた『徳島動物園（市立）』、3連休初日だというのにこんな天気だからか駐車場がかなり空いている。園内を回遊していてデジャブな気持ちに囚われる。妻（さい）に訊ねると「前に行った`高知のいち動物園（県立）、と設計が同じなんや」「なるほど」。末っ娘グラド、初めて見る象さんの前で突立ったまま声がない、リアクションさえもない、一体どんな印象だったんだろうな。

動物オリの前すべてに楽しいイラスト入り解説カードやクイズが並べられている、とても読み切れない枚数だ。途中、飼育員の可愛いお姉さんにも会った。気遣いの行き届いた動物園だからマルッ！だ。

：

大鳴門橋界限

帰途、渦上45メートルの海上を遊歩する『渦の道』に寄り道。

この界限には、大鳴門橋、記念館、展望台、うずしお汽船、大塚国際美術館（一日で観きれない数の陶板焼レプリカ絵画を展示とか）、プライベートビーチを持つ観光ホテルなどが集まっています時間の節約に。

動物園を出る頃からドーター旦那、「びんび家楽しみや、なに食べよか、みんな一所懸命歩いてお腹空かしてな」。・・・え、びんび家で食事？

：

びんび家

その昔、お勤め人に成り立ての若い頃にクルマでこの前を一度通りかかって以来、きょうの今まで、鳴門わかめなどを販売する`海産物土産、のお店だとばかり思っていた鳴門『びんび屋』、実は人気の食事処だった。長年の誤解が解けて食べて旨かったよ！という話に落ち着くのだが、さて。

広い店内はさながら大食堂、賑わいが食欲をそそる。最初に目に飛び込んできたのが、煮魚のショーケース、そのなかでもひときわ身の太い煮魚、注文した後で訊（き）くとコチだった。わかめの味噌汁がカラダに優しいぞ、その他、刺身、天麩羅、丼、鯛飯などのメニュー。他に何があるのか、何が一番のウリなのかあと2~3度行かないと分からないが、ちょっと遠いなあ。鳴門『びんび家』、なんともボリュームと鮮度がよろしい、よってマルッ！だ。

* グラド=Grand Daughter（孫娘）



モグ

マイドーター。

ふっくらした頬、朗（ほが）らかな性格だからか、

いつも満面に笑みを湛（たた）えている。

溢（こぼ）れんばかりに白く、矯正の甲斐あって健やかで美しい歯並び。

いつしか友だちから付けられたあだ名が【モグ】。

いいじゃないか、そのあだ名！と思っていたら最近その謂われを聞いたよ。

コミック『笑うせえるすまん』（藤子不二雄A）の、

喪黒福造（もぐろふくぞう）の`モグ、だということ。

ちょっとしたシャレだったか。・・・ほーっほっほ、ド〜ン♪

：

最近コミック本を1冊読んだばかりだったので、

再度すべてのコマを見てみると、喪黒福造の表情は一つしかなく、

大きくて丈夫そうな歯を見せた`せえるすまん笑顔、タイプだけだったよ。

Photoはネットから無断転載。不可の場合はご一報を。

義母さん



義母さん

2019年5月1日、新元号発表。馴染むまで2～3日かかるだろうか。

：

大正15年（1926：昭和元年）生まれの人だといま93歳、

4元号に亘（わた）って生きられていいよ*なあ、などと思う訳ですよ。

義母さんは昭和5年（1930）生まれ、いま89歳、

100歳まで生きる（いまも健康！）予定ですが、4元号という訳にはいかず、

ちょっと残念ですねと、こんど会ったら言ってみようか、

熱いコーヒーを戴きながらでも。 *時代の証言者といった意味もありで

：

S A I がワタシの傍らで電話をしている、

賑やかな声のトーンとテンポ、訊かなくても相手が義母さんだと分かる。

一卵性母娘みたいやな、

と常々ワタシが言っているほど性格もしゃべりもよく似ている。

なになに、きょうは義母さんの89歳の誕生日だったの、

もうあれから一年かとやや遠い目。・・・そういえば去年の、

：

2018年1月元旦。

裏の小山に1日限定で日章旗があがるホテル `トレス夕城山、で米寿の集い。

義母さんの子供たちは一男二女、結婚してそれぞれに連れあいができて。

でまたその子らが結婚して。さらにその子供たちが。

ひ孫も5人いて全部で18人だっけ*が大集合。賑やかな宴会でありました。

:

といえ毎日常。義母さん、就寝前にふとんに入って、

全員の名前を唱えて、最後にみんなの健勝を祈ってから寝るのだと、

40年ほど前に聞いたことがあって、それは今でも続けられていると、

この時も壇上で言っていた。壇上での義母さんの挨拶、

生きてきた88年分の歴史のメッセージがスマホに収められている。

:

2018.1.1 米寿の集い（この時、二人のお腹の中に一人ずつ赤ちゃんが）

*咄嗟には答えられず、また覚えれずで



お花見や、あゝお花見や

先週末にかけて天気予報は雨and曇りが続いて、極めつけはこの土曜日。

朝起きると見渡す一帯、これが五里霧中かというほどの霧の中。

S A I 「いつも港の方から霧笛が五月蠅いんやけど、ぜんぜん鳴らんわ」と。

そりゃそうだ、フェリーは視界500メートル未満で、早朝6時から欠航していた。

できょうの日曜日がチャンスだったが、生憎（あいにく）たまの仕事を重なって、

S A Iはお仲間たちとお出かけ。

地方紙によるとこの週はじめが見ごろと桜予想。

今年のお花見は近年未曾有（みぞう）の雲行き、というか先行きが限りなく怪しい。

T w i t t e rでは、

他県のお花見ショットや満開の桜P h o t oが賑やかにアップされている。

ううっ！こうなりゃせめて10年前の『鯉の麩やりショット』でもアップ。

しかしまあ、こうやって太鼓橋の下を見ると鯉の奴ら、かなりいたんだな、

いまはサギに殺（や）られちゃって見る影もないけど。

につくきサギ野郎め！

一昔前だと空気銃は免許不要で、磯野カツオ君（サザエさん）でも持っていたから、

広い敷地、弾道を気にせず公園の人たちみんなで撃ち落とせたのになあ、

などと、いつのまにか話がスライスもしくはフックしている。

今年のお花見、一体全体いかなることに・・・。

:

2017.4 (P h o t oは2007.4 i n 栗林公園)